

令和2年度 第1回 総合教育会議 議事録（概要）

- 1 日時 令和2年5月26日（火）15:45～17:10
- 2 場所 勤労者福祉会館6階研修室
- 3 出席者 知事、教育長、教育委員4名
- 4 議題 ・令和2年度における総合教育会議の運営について
・新型コロナウイルス感染症への対応とそれをふまえた今後の教育活動の推進について
- 5 主な意見（○：教育長、教育委員、●：知事）

<令和2年度における総合教育会議の運営について>

- 第4回で協議する予定の「学力向上・体力向上」の議論の深め方について、今年度は全国学力・学習状況調査や全国体力テストが中止になったことから、例えば、非認知能力をどう育てていくのか、豊かなスポーツライフを実現するにはどうすればよいのかといった点に焦点を当てて、議論してはどうか。
- 新型コロナウイルスによる事態は流動的であり、日々、学校教育への影響は出てくる。今後協議する予定のいずれかのテーマに関してでもよいが、再度、新型コロナウイルス感染症に関して議論してはどうか。
- 想定できないことが起こっているため、学校や子どもたちのためにどういうテーマ順が良いのか、今後も検討していく必要がある。
- 新型コロナウイルス感染症の影響による不登校、いじめ、児童虐待、DVの状況を注視する必要がある。
- 新型コロナウイルスの影響に関する議論は、毎回少しずつ行うより、まとめて議論するほうがよい。不登校、いじめ、安全安心の議論を経た第4回の会議で議論する方向で検討したい。
- 4月の速報値では、対前年比で、児童虐待は相談が減り、DVは少し増えている。児童虐待の相談件数が減っているのは、虐待そのものが減少したのではなく、休業の影響で学校からの通報が減少したからではないかと考えている。今後、DVや虐待等について報告したい。

<新型コロナウイルス感染症への対応とそれをふまえた今後の教育活動の推進について>

- 今後、オンラインで県外や海外の大学等の授業が聞けるなど高校と大学の連携した教育が進むことで、世界中の英知がより身近になっていくと思う。その一方で、オンラインによる在宅学習の子どもへの影響について考えていく必要がある。
- コロナとともに生きていく中で、他者と物理的な距離を取りながら生活していくことが求められるこれからの時代にあって、学校教育においても新しい生活様式を創っていかねばならない。オンライン教育を通じて不登校の子どもたちも出席できるようになるケースが増えるのではないかと考えている。

- 今回の状況はリアルな課題を教科横断的に学び「生き抜いていく力」をつけるチャンスである。
- 稼働率が下がっているホテルや旅館の客室をオンライン授業で活用するような連携があってもよいのではないか。
- 修学旅行先を県内各地にすれば、安全性を確保しながら、三重の農業等の体験や文化遺産に触れることができる機会となる。
- 小学校や中学校におけるICT環境整備にばらつきが見られる。感染防止のための少人数での授業を実施している中、数学や英語については、習熟度に応じた授業とするほうが子どもの意欲などを高める点で良いのではないか。
- 小中学校におけるデジタル環境の整備については、国において今年度中に一人一台の端末を配布できるよう予算措置がなされている。ソフト面についても、県立名張青峰高校を基点にオンラインで開催したオンライン授業に係る研修には100名を超える教員が参加するなど各学校で大きく進んだ。6月には、小中学校の教員を対象とした同様の研修を開催する予定である。
- 登校を控える子ども、不登校の子どもたちも学びに関わっていけるよう、オンラインでの授業配信を検討している。
- 災害時等に休校となった場合や学校が避難所になるなど長期間にわたって学校での授業ができなくなった場合に備え、今回のオンライン教育に係るインフラやコンテンツの整備等を生かして、子どもたちの学習を継続できる環境整備の取組を市町と連携し、具体的に検討すべき。
- 感染症対策と災害時避難を両立させるためには、避難所を今よりも分散させていく必要がある。現在避難所となっていない小中学校も避難所に指定され、その結果、子どもたちが学習できないという事態を避けるため、小中学校、市町とも議論を進めていかなければならない。
- オンラインを使うと、子どもたちの学習の選択肢が増える。大人が制約することなく、子どもたちの選択肢を広げていけるようにしなければならない。
- 感染症対策やオンライン教育をしていく中で、子どもたちに学習だけではない非認知能力等を育てていくにあたり、コミュニティの力をどう活用していくのかという視点で、コミュニティスクールのあり方についても議論が必要だ。
- 部活動が休止している今、部活の意義について問い直す良い機会ではないかと考える。
- このまま部活動を終了していく中学校3年生や高等学校3年生の子どもたちの想いをどのようにすればよいのかを考えていく必要がある。
- 経済や家計も厳しくなる中で、家庭内で生じる問題も深刻になってくる。子どもたちの居場所である家庭を守るため、保護者へのケアが必要である。
- 学校休業の中で、保護者にはスクールカウンセラー等がさまざまな相談に対応することをお知らせしており、実際にいろいろな相談を受けている。

- オンライン教育を行う中で、パソコンやタブレットを見続けることに慣れていない子どもも多い。姿勢や視力への影響等の健康面、生活リズムの維持に注意を払うことが大切である。
- 新型コロナウイルス感染症に対応する中で、オンライン教育が進んだなどといった側面もあったが、一方で課題や反省すべき点もあった。子どもたちのために良い方向となるよう、引き続きしっかり議論してほしい。